

## 基本構想検討委員会を振り返って

委員長 小原 幸三

目手久に移住した4月の集落説明会で、ごみ処理施設の状況を知った。第一印象は、住民と行政の情報共有がなされていない「疎遠」な状態があることだった。後日、建設当時の状況を聞いたが、地域内の対立の様子しか聞けなかった。

インドネシアのごみ処理に関わっていた関係で検討委員長を引き受けることになったが、ごみ処理施設の問題は、世界共通の課題でもある。人の生活とその社会性を示すものともいえる。発端は、地域社会のごみが社会の「発展」にともなって急速に増えたことである。ごみを目の前から「消去」する最も効果的な方法は、焼却であったが、焼却過程で発生する有害物資のダイオキシン類は、健康にとって無視できないレベルであった。海外では、埋立が多く、焼却炉の数はかなり少ない。ごみの考え方は、その地方ごとに異なっている。

住民が、排出したごみをどのように処理するかは、法律で定められている。法律の意味は、国が責任をもって国民の健康を維持するということであり、行政はそれを実施することが業務である。国・県・町のレベルで様々な規則等を整備して行うことになっている。

地域のごみ処理は、これらの規則等に従って地域の实情に合わせて、住民と行政が、実施の手法を決める「自治」の概念が試されている。ごみ処理の先進地でも、10年以上の時間をかけて「ごみ処理問題」を解きほぐし、一つの答を得ている。

答を得るためには、何を最適にするかを定めることが必要である。私は、「次の世を担う子どもたちの社会」ということを、一人ひとりをお願いしたい。そのカギは、「ゴミをなくすこと」である。「リサイクル」は新しい時代を創る重要なカギを含んでいる。不用になったモノから新しいものを産み出す能力を得ることが、この徳之島を「きゅら島」にし、いつまでも持続し得る社会を創ることになると確信している。

焼却施設に見られる共通の住民感情は、施設の必要性は理解する。だが自分の家の近くに建てられるのは歓迎されない。島民の利便性を考慮して積極的に自分の町・地域へ誘致する提案は周辺住民の同意も容易ではない。

既存の処理施設は、ダイオキシン問題など不安要素も多く継続使用も住民の理解が必要です。一方、日々発生する焼却灰と非可燃ごみの残差は、埋め立処分場の残余年数を逼迫し延命化に影響を及ぼします。埋め立処分場の延命化対策は可燃ごみの減量化・資源化を早急に導入する必要性が問われています。

資源化は、中間処理・保管施設など焼却施設の代替施設が必要です。一番目に減量化に有効な生ごみ・草木類の分別排出をモデル地区で実証し排出量から施設計画と収集計画に反映します。生ごみ以外の資源化は、排出量と分別負荷を考慮し分別品目を選定します。

分別は、できない、めんどろ、高齢者は無理など多くの反対意見もあるでしょう。ごみ処理施設の現状を公開し早々にダイオキシン問題など住民の不安解消のため、ごみ問題に特化した住民組織を整備し排出者の役割と責任を担う協力体制を構築します。新設と延命化の双方も持続可能な施設で無く再更新の度に同様の問題が発生するでしょう。

先ず、既存施設の抱える課題を早々に解決すべく可燃ごみ削減に排出者が取り組み周辺住民の負担軽減を図る対策が求められます。焼却炉の更新計画は可燃ごみの減量化を優先し焼却炉の規模を縮小して選定されたい。

焼却炉更新は、着工時期が不確定で長期化も予想されます。最短で可燃ごみの減量化に有効な手段は資源化が効果的であり、ごみ資源化を選択しない減量化はあり得ない。可燃ごみの減量化を目的に低コストで持続可能な環境にやさしい徳之島愛ランド分別収集システムの早期導入を提案します。

ごみ処理については、国内多くの自治体が問題を抱え、二酸化炭素の排出などで温暖化対策がなかなか進まない現状に頭を悩ませているのではないのでしょうか。徳之島においても不法投棄、ゴミの分別、生ゴミの水切り、ゴミ捨てるルールが一部では守られていない現状と、ゴミの量に合ったゴミ処理施設の適正稼働等の問題を抱えているように思えます。

また、徳之島は高齢化、人口減少化が進んでいる現状を踏まえつつ、この課題を克服するために、若年層の流出を少なくし、若年者と高齢者と共存できる島づくりに取り組まなければならないと思います。ごみ処理の課題をすべて、自治体が背負わなければ成らないのか、民間企業と協働した取り組みが出来るのではないのか、また、住民一人一人が取り組まなければならない事が山積しているようです。

ゴミ処理の先進地の取り組みを見てみると、産業廃棄物処理企業が参入し、生ゴミ、可燃物、リサイクル対象商品を各々処理するため、各ステーションから収集し、生ゴミは「たい肥」に、可燃物は燃料用のペレット固形燃料に加工、リサイクル対象商品はそれぞれに分別した上で、各企業が各々の商品として販売利益を上げています。このようにゴミ処理に民間企業が参加する事によって若年層の働く場が提供されたり、地域に根差した企業として地域活性化に寄与しています。また、ゴミの分別やリサイクルに協力する地域にはそれぞれの取り組みによって報奨されるため、地域間に競争や、ごみの減量化への取り組みも観られるようになったそうです。

徳之島においても、先進地モデルを参考に住民一人一人が取り組めるモデルを構築し推進して欲しいものです。また、自治体、民間企業、住民の参加で、その時々の問題を解決していく「徳之島のゴミ処理の明日」の話し合う場を設けることが重要ではないでしょうか。

検討委員 保岡 達郎

徳之島愛ランドクリーンセンター施設整備基本構想策定検討委員会に参加して思ったことは、十数年ゴミ処理センターに収集業者としてゴミを搬入しておりますが、ゴミピット内にはいつも半分以上ゴミが溜まっており、外には布団や畳類が山積みになっていました。去年ダイオキシン問題がでて、十一月に従業員を四人増やして今ではとても綺麗に片付いています。そして、ゴミの搬入もスムーズにできています。目手久集落から指摘されて対応したようですが、なぜ今までできなかったのか？と思いました。

ゴミの分別に関しては、集落の総会などで、区長さんを中心に話し合いの場を持ち、分別に対して、徹底して出すようにすればよいのではないかと。私の住む上花徳集落は、ゴミ集積所が2箇所しかないのですが、婦人会で当番を決めて、収集日には清掃作業を行っており、区長さんが、時々見回りを行っています。

天城町に移転する件については、持ち回り制とはいえ、天城町民の皆様が反対意見もなく、受け入れたことには感謝いたします。

検討委員 永井 照久

徳之島のごみ処理は、可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみに大別されている。

現状、可燃ごみの中には資源として活用出来る物が大半であると推察する。

その中でも食品包装資材として使用されているプラスチック類・調理加工時に出る生ごみの量が圧倒的に多いと思います。

まずは、この二種類のごみを徹底分別し固形燃料化・堆肥化する手法を構築するべきではないでしょうか？

幸いにして、日置市・大崎町の事例もお聞きしました。

徳之島でも実施可能だと思います。徹底分別によって焼却量を減らし、焼却施設を最小化し、余の予算を固形燃料化プラント・堆肥プラント設置に向けたら如何でしょうか？

新プラント設置は雇用促進に繋がり地域の活性化に大きく寄与する。

生ごみの堆肥化は、既存の堆肥工場との連携も可能ではないでしょうか？

焼却量が減れば大気汚染も少なく地域住民も安心出来るし、クリーンな空になる、有機肥料還元は徳之島の農地を肥やし・農産物の増産にも繋がると思います。

委員会としては時間的制約もあり、地域振興策に繋がる具体的な分別したごみの処理手法まで踏み込めてないですが、広域連合議会では是非成案をお出し頂き度切望いたします。

次に、ごみ出しルールの遵守徹底については、各地域（ブロック）毎に啓発推進委員を委嘱配置しその傘下に集落毎に小組合（ごみステーション単位）毎に指導員を選任し、定期的に啓発講習を行うべきではと考えます。

何のために分別徹底か？名前記入か理解・納得させるべく根気よく指導して行く必要があると思います。

検討委員 川上 光男

今回天城町一般業者代表として、検討委員に選任されこれまでのクリーンセンターの在り方、ゴミの処分、ダイオキシン問題、機械のメンテナンス等などに携わり色々学ぶ事が出来て思った事は、ゴミの処分も以前よりスムーズに行われダイオキシン問題も行政、職員の尽力のおかげで、問題をクリアされ今後も一層努力し島民の生活に支障が出ないようよろしくお願いします。

一般業者としては、ステーションへのゴミの出し方、分別を徹底して行って欲しく行政、各区長と連携を取りながら、島民の意識改革に努めたいと思います。この検討委員会を立ち上げるきっかけになったのは、地元住民からの意見要望から出来たと思っています。一番の問題は、クリーンセンターの延命か、新施設かでしたが、新施設に決まり、設置する場所も現在の場所と言っていますが、やはり第一に地元住民の意見を尊重しこれからの新施設建設に向けて進んでほしいです。

二年間という期間でしたが、検討委員会に、携わり色々と学ばせて頂きました。有りがとうございます。

小さな島が、ゴミで埋もれてしまわないようダイオキシンで、未来の子供達の健康を損なわないよう島民が一つになり、ゴミ処理が出来る様願っています。

## 徳之島のごみ処理の明日

美山 保

クリーンセンターの設置地区である西目手久集落の区長として、この2年間検討委員会の一員として参加させて頂きましたが、まず申し上げたいのは、徳之島愛ランドクリーンセンターの管理者である徳之島三町長において、必ず島民に対して徳之島のごみ処理のあり方について広く伝え、どのような処理の方法を島民は望んでいるのか、聞く耳を持つことが大事であると思います。

今回の検討委員会においては、そのような取り組みが約15年間なされなかったことが原因で、このような状況になったと言わざるを得ません。

また、行政のみならず、施設周辺地区以外の住民においても、ごみの排出に対する意識と責任を持って頂きたいと思います。具体的には、乾電池や水銀が含まれたものは燃えるごみに入れないなど、同じ島民が居住する地区への影響を考えることが、今後の徳之島のごみ処理のあり方として、重要視されるべきだと思います。

そして、今後の施設整備においては、これまでの反省を生かす意味でも、施設を整備する地区への配慮、また島民へ何かしら還元のできる施設の整備を強く望みます。

私も、鹿屋市の廃棄物処理施設を訪問致しましたが、徳之島の施設と比較して、清潔感に溢れていて、大げさな言い方をすると、ホテルのようにきれいな施設でありました。しかし、私たち徳之島の処理施設は、ごみ処理場ではなく「ごみ捨て場」と揶揄されてもおかしくない状況であり、今後は施設の運営をする管理者と現場で直接的に維持管理を担う職員が責任感と使命感をもって、改善をして欲しいと思います。

最後に、この2年間の検討委員会の話し合いが無駄にならないように、行政が答申内容に沿って、しっかりとの方針を示して頂くよう願います。

私はゴミの収集運搬業に関わっておりながら、ゴミ出しについては十分に理解しておらず、集めたゴミを運搬するだけの考えしかありませんでした。今回、ゴミ処理場の問題が出て初めて住民の役割が解っていなかった事に気付きました。家庭ゴミの出し方の手引書がありながら目を通すだけで、しっかりと理解をせずゴミを出していました。行政、愛ランドも又、立派な手引書を出しながら、配布のみで説明の機会等なかった様に思います。世界自然遺産登録も間近に迫っていますので、私達住民一人一人が手引書をしっかりと読んで正しいゴミの出し方を心掛ける必要があるのではないのでしょうか。行政も又住民の皆さんへ現状の説明不足だったのではないのでしょうか。今後ゴミ問題についてどれほど大事なこともっと知ってもらう必要があると思います。「私事ですが台所の生ゴミ受けには、網袋を入れて水切りし、ペットボトルはキャップを取り、シールを外し、買物には袋持参で夫婦努力しているところです。」今回のゴミ処理場の問題についても、広域連合議会、町長、基本構想検討委員、そして目手久地区の皆さんしか現状の問題点が分かってなかった様に思います。ゴミの分別も、もっと努力をすれば十分減量化ができると思います。台所の生ゴミ等も堆肥化して農家への還元できないのか等々、今まで一年間ゴミ処理場の施設整備基本構想検討委員をさせてもらいました。ダイオキシンの事が目手久地区周辺で大問題となりこの件も無事解決する事ができ、移転場所についても天城町が快く受け入れ表明してもらい。又、伊仙町でも現在地での受け入れ表明がありました。新規建設案、基幹改良案の設計書もでき、予算案も出てきましたので、ゴミ処理場建設について考えを述べてみたいと思います。目手久地区の皆さんから色々な話が出、賛否両論ありましたが、これはあくまでもダイオキシン対応が不十分で健康被害を心配しての事だったと思います。有害なダイオキシン対応もできましたので、目手久地区の皆さんにご理解とご協力をお願いし、現建物を利用して少ない予算で立派なゴミ処理施設が出来ます事を願います。伊仙町、徳之島両町では近いうちに新庁舎建設計画の話も聞かれますので、厳しい財政時期全島民の負担軽減を第一に考えて計画するよう強く要望します。



今回のごみ処理の案件により、全島民が、島のため、日本のため、地球のために、何が自分たちは出来ているのだろうか、気づかせてもらう機会であった。だからこそ、私達は何を意識し、何ができるのか、その事により次世代の若者にどんな財産を引き継ぐことができるのか、今こそ、島全体が一つになり島のために動き出すチャンスではないだろうか。そこで、このチャンスを生かすため、次の3つを検討してみた。一つ目は、ゴミを正しく処理する知識と意識の構築である。今までは、自分の都合と知識や方法で、処理をしているケース多くあったのではないか。ポイ捨て、分別なし、処理する場所も勝手など日々の生活で正しくゴミ処理ができていたのだろうか。これを徹底できていないため、町を汚していないだろうか、ごみ処理センターの職員に多大なる労力や処理の悩みを持たせていないだろうか、互いの家や畑に迷惑をかけていないだろうか。まずは、自分たちから自問自答し、正しい知識と意識が、町を助け、仲間を助け、きれいな町と畑をもたらすことはできるのではないだろうか。二つ目は、リサイクル活動の大切さを改めて認識しました。ごみと思う物が、処理方法や分別方法により新たな形で再利用でき、ごみを減らせる。今の処理方法のリサイクルの貢献度は、どうだろうか。リサイクルの質が向上すればするほど、買い手は喜び、売り手も喜び三町も喜ぶ。このリサイクル質を高めるため、どのような分別方法があるのか、どのようにして地域住民で協力できるのか、みんなでリサイクルを意識することで、関わる人々に良き相乗効果が生まれるのではないだろうか。三点目は、徳之島全島民が一つになることが大事である。世界自然遺産登録で徳之島が注目を集まる中全世界にごみではなく、地球のために生かしている島が徳之島と発信できる、アピールできる、きっかけになるのではないか。全島民が一つになる事の是非が、大人の都合、町の都合、地域の都合などあるかもしれない。しかし、その都合は、徳之島のためになっているのだろうか。次世代の若者に堂々と引き継げるものになっているのだろうか。今だからこそ、徳之島が本当にいい島だと思える、思ってもらえるためにも、今回のごみ処理をスタートに、全島民が一つになる良いきっかけになるのではないだろうか。最後に、改めて、今までの自分たちの生き方、考え方、行動はどうだったのだろうか。また次世代の若者に、良い財産を引き継ぐためには、どのような取り組みをみんなでするべきだろうか。この振り返りと今からの前向きな考えを整理・共有し、「温故知新」、徳之島の伝統は残しつつ改善する所は改め直し、誇りのある最高の徳之島のため、日本のため、地球のために、全島民で同じ方向に前進していきましょう。

## 徳之島のごみ処理の毎日

検討委員 樺田 和也

はじめに、私が検討委員に参加するきっかけは、平成三十年四月五日に開催された「徳之島愛ランドクリーンセンター」の運営期限切れに伴う施設設置地域である西目手久集落への「住民説明会」での杜撰な説明でした。島に戻り先祖代々の畑で農業を始めておりますが、建設当時に集落を二分の状況で建設された施設です。説明会の後、施設を訪問し管理状況の不備や機器の老朽化を目にした時は啞然とし、六十億かけて造られ、とても十五年間管理運営された建物とは思えませんでした。施設訪問後、連合長と二時間程施設の管理運営状況とごみの問題について話をし、「施設整備基本構想」が連合議会において条例制定され検討委員に任命を受けました。

幾度の会議で気付きました事は、島民は「ごみ処理問題に無関心」の方が多数であるという現実です。日々の生活で出ているゴミの殆どが「プラスチック類」です。新聞でも報道されていますが、高温で焼却されず「ダイオキシン類」が発生している状況で「世界自然遺産」に登録されて良いのでしょうか。仮に登録されたらゴミは増え島の環境は更に悪くなるでしょう。

現在、三町持ち回りの約束で天城町では、町長が各集落にゴミ処理施設の是非を問う説明を行い全会一致で承認されたと聞いておりますが、伊仙町においては、施設設置地域との「住民合意形成」の話も纏まっていません。

検討委員に参加されている鹿児島県大崎町の職員が、大崎町では「ゴミをお金」にしている取り組み事例を紹介されており、住民一人ひとりが取り組めば出来るとの事です。

今こそ「島民一人ひとり」がごみ問題を考え、行政任せにしないで、日々の生活で発生しているゴミを廃棄焼却するのではなく「再資源化」して、世界に誇れる「徳之島」にしましょう。